

# JIA

MAGAZINE

279 APRIL 2012



建築家  
architects

●特集 プロポーザル方式を考える⑨

隈研吾氏に聞く

●支部便り

北陸支部・九州支部

災害は、建築と都市を変えるのか。専門家の役割とは。

『3・11とグローバルデザイン 世界建築会議からのメッセージ』



JIAデザイン部会長 連 健夫

東日本大震災から1年が過ぎ、まちづくりや建築における様々な問題が、いたるところで顕在化、かつ先鋭化してきています。何が問題であり、今後のデザインにおいて何が必要なのでしょう。

このたび、昨年のUIA2011 東京大会でのシンポジウムをまとめ、日本建築家協会・デザイン部会編著、鹿島出版会から新刊『3・11とグローバルデザイン 世界建築会議からのメッセージ』が出版されました。

出版社の編集者が選んだ執筆者のメッセージは的を射ています。「私たちが求めるグローバルな建築は時代を超えて前向きに生成的な価値をもつもの」(長島孝一氏)、「本当は力があるのに行動しない人を刺激して覚醒させるのも建築家の役目であり、そういう意味で建築の構築する力を信じている」(新居千秋氏)、「これはグローバルなのか、あるいはローカルのアプローチなのか、普遍化することと、想定外であると諦め、個別解として対応すること、ときにそういう姿勢も大事」(チョー・ミンシク氏)、「「精度のない」、「最終形のない」、「押しつけない」建築をグローバルな建築と言ってよいかもしれない」(松原弘典氏)、「「専門家」は、あまりそこに長くいてはいけない」(チャン・トーマス氏)、「「関係」をだれかが代弁することでしか、本当はデザインというものはないのではないか」(内山節氏)、「いまや、設計の条件は与えられるものではなく、つくっていく」(連健夫)です。まさに当日のディスカッションでのポイントが表現されています。

これらの詳しい内容が、この書物の中で写真や図を交えながら、わかりやすくまとめられています。これに加え、3つのコラム「地球環境時代の地球環境デザイン」(大

野二郎氏)、「グローバルマインド／ゲデスとドクシアディスから学ぶこと」(渡邊研司氏)、「災害復興とグローバルデザイン」(林昭男氏)が、テーマを立体的に深めています。

そもそもグローバルデザインとは何なのでしょう。グローバルはグローバル(地球化)とローカル(地域化)を合わせた造語です。パラダイムシフトにおける今後のまちづくりや建築に必要なのは、そのどちらかではなく、グローバルとローカルのバランスとその捉え方が鍵になります。その視点には①ヴァナキュラー性、②環境共生、③利用者参加、があり、3.11からの建築家の様々な活動もこの視点を通して説明が可能で、今後の街づくりや建築を考える上においても、確かな手がかりになります。国際的に活躍している執筆者の作品事例はパワフルで説得力を持ち、それぞれがグローバルデザインに対する考えを表明しています。

出版社のキャッチワーズは、「震災は建築と都市を変えるのか？専門家の役割とは？」

2011年秋、UIA2011 東京大会にて発せられたメッセージと白熱の討論、グローバルとローカルの狭間でつまずいている建築デザインの、パラダイムシフトへの挑戦」です。

本の印税はすべて被災地を支援しているNPO団体に寄付されます。ぜひ、建築家のみならず多くの方に読んでいただければと思います。(6月8日(金)18時～JIA館1階建築家クラブにて、出版記念トーク・パーティーを予定しています。どうぞご参加ください。)



『3・11とグローバルデザイン 世界建築会議からのメッセージ』  
日本建築家協会・デザイン部会編著  
鹿島出版会刊  
2012年3月刊行  
定価 2,400円+税  
A5判、並製カバー付、168ページ  
英文併記 (Summary)



2011年9月29日 UIA2011東京大会でのシンポジウム

